

# 平成 27 年度 燕市西蒲原郡国語部 活動報告

部長 鈴木 華奈子

## 1 研究主題 「思いや考えを伝え合う授業の工夫」

## 2 研究の概要

### (1) 授業研究会 期日：6月3日（水）

話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう

「きいて、きいて、きいてみよう」（光村図書 5年）

授業者 燕西小学校 前澤 めぐみ 教諭

指導者 松長小学校 鈴木 華奈子 校長

#### 《授業の概要》

「〇〇の部屋をやってみよう！」と題してインタビュー活動を行い、聞き手には、臨機応変に質問させたり、話し手の答えを受け止めたりすることを体験させる。話し手には、聞き手が何を知りたいのか考えながら聞き、質問に対する答えだけでなく関連する内容にもふれ、創造的なやり取りになるように心がけさせる。また記録者には、インタビューから要点をメモし、記録をもとに報告することを体験させる。

#### 《協議会の概要》

子どもたちは、クラスのあたたかい雰囲気のもと、意欲的にインタビュー活動に取り組んだ。ただ、事前に準備していない「新たな質問」をすることが難しいようであった。また、自己評価だけでなく子どもたちの相互評価（アドバイス）も入れると、より効果的だったのではという意見が出た。

#### 《指導の概要》

記録者の「きく」、話し手の「きく」、質問者の「きく」と、3つの「きく」があったが、質問者の「きく」は、他の2つを応用したものになる。なぜなら、「新たな質問」をするためには、「情報を聞き→整理し→考え→質問する」という思考の過程をとるからである。そういった意味で3つの「きく」を体験するのは大切なことであった。また、いかに国語で学んだスキルを生活の中で生かしていけるかも重要である。そのためには、何のためにこの学習をするのかを子どもたちに意識させることが大切である。

### (2) 講演会 期日：12月2日（水） 会場：吉田産業会館

演題 「これからの国語授業のあり方」

講師 燕市教育委員会 統括指導主事 佐藤 浩一 様

#### 《主な内容》

- 全ての授業で大切なことは、①学びの土台、②板書とノート、③振り返り。「①学びの土台」として、手の挙げ方、話の聞き方、話し合いの仕方などの「学習規律」を徹底することが大切。また、「②板書やノートの計画」をしっかりたてることで、「分かりやすい授業・学習」につながる。また、「③毎時間子どもが自分の学びを振り返る」ことで、「学びの意欲や主体的な学び」につながっていく。
- 国語の授業づくり・単元づくりについて。単元をつらぬく言語活動を設定したら、毎時間毎時間それを意識して学習ができるようにする。また、1時間の授業の終わりのまとめで「他のことに使える武器」を与えていく。国語の授業で学習したことを一般化できれば、それはこれからの生活に生きていく。それが実感できれば、国語への学習意欲が高まる。毎時間毎時間「〇〇の力がついた」と自分の成長を感じられたら、国語が楽しくなる。

## 3 成果と課題

授業研究では、国語をどのように子どもたちの生活に生かしていけばよいのかについて学び合った。講演会では、日々の授業と国語の単元構成について、改善のポイントを教えていただいた。2つの活動を通して、これからの国語科の授業づくりについて研究を深めることができた。来年も講演会と授業研究の2本立ての内容を軸に、計画立案していきたい。

